

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第45号

2006(平成18)年5月1日

LET九州・沖縄支部事務局発行

〒814-0180 福岡市城南区七隈8丁目19番1号

福岡大学 人文学部 大津敦史研究室

TEL (092) 871-6631 FAX (092) 864-2864

E-mail: secretariat@jlet-ko.org

編集: 中野秀子・川上典子・長 加奈子

支部の更なる活性化を目指して

LET九州・沖縄支部長 大津敦史(福岡大学)

九州・沖縄支部の皆様、今日は！この度、木下正義先生の後任として、九州・沖縄支部長に就任しました福岡大学の大津敦史です。どうか宜しく申し上げます。昨年4月より一年間、ハワイ大学マノア校にて在外研究の機会を与えられ、本年4月無事研究期間を終了し、帰国いたしました。その間、木下前支部長を初め運営委員の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りして、心からお詫び申し上げます。

これより2年間、何を目標にして支部運営に当たるつもりなのか簡潔に且つ具体的にお話をする事で、私の所信表明とさせていただきたいと存じます。ただ、運営委員会における今後のさまざまな検討を通して、もちろん些かの方向転換がありえることもどうかお含み置きください。現在、支部の運営委員ならびに評議員は、運営委員会を通して、基本的に九州・沖縄各県より選出されていますが、福岡県選出の委員の占める割合は常に高い数字を示しています。これは「福岡中心主義」などという発想から生まれた結果では決してありませんが、支部全体から眺めると、そのような印象を与えてきたのは事実だろうと思います。このような偏りを今後改善すべきか否か、改善するとしたらどのような方法が考えられるのか、じっくり検討する時期に来ているように感じます。ただ、年間4～5回(全国研究大会担当年度を除いて)開催される運営委員会への出席率が必ずしも思わしくなく、この状況を改善するにはどうしたらよいのかについても平行して考えていく必要性を感じます。つまり、福岡県からの選出を減らした場合、これまで以上に運営委員会への出席を期待できるのかどうか大きな問題点となるでしょう。次に、役員選出方法についてですが、現在九州・沖縄支部では、改選年度最初の運営委員会において選挙を実施し、その結果は支部だよりなどを通して支部の皆様にお知らせしています。このように、既存

の運営委員会が次期運営委員を選び、その運営委員会が選挙で次期役員を選出するという方法では、どうしても密室(一部の委員の中だけ)で全てが決まっているような印象を与えかねません。この点を改善する方策についても今後検討が必要だろうと考えます。それから支部の事業内容についてですが、「学会会則第5条」において、1)研究会、2)講演会、3)講習会の開催がその主な内容と規定されています。毎年1回(全国研究大会担当年度を除いて)開催されている支部研究大会は、多くの先生方のご協力を得て、これまで問題無く運営されて来られたと思います。ただ、これまで以上に口頭発表への申し込み件数を増やすにはどうしたらよいでしょうか。これも大きな課題の1つです。また、講演会につきましては、今までJACET九州・沖縄支部との協賛で年1～2回開催するのが常でした。今後もこのようなやり方を踏襲すべきか否か、これまで通りやるとすれば、その開催時期や場所、それに講師の選出方法などについて、もっと検討する必要があるでしょう。講習会については、ここ数年来閉店中ではありますが、全国研究大会で好評を博している各種ワークショップの開催なども視野に入れないといけないかもしれません。また、現在支部が抱える大きな課題の1つは、将来LETを担って行かれる若い先生方を如何に学会活動に導き、積極的に参画していただくことが可能かを模索することだと思います。早急なる方策を検討しなければなりません。

今後は先生方のご協力を得ながら、このような問題点を1つひとつ改善できればと切に願っております。様々なご意見を賜りたいと思いますので、どうか宜しく申し上げます。最後になりますが、8年間の長きに亘って、支部運営のため多大なるご尽力をいただきました木下正義前支部長に心からお礼を申し述べたいと存じます。本当にありがとうございました。

支部長退任にあたって

木下正義（福岡国際大学）

1999年4月1日から支部長に就任して早8年の歳月が経ちました。「歲月人を待たず」の格言のようにあっという間の8年でした。小生が支部長としてマニフェストとして考えたことは、1) 支部紀要の発刊、2) 支部の改名、3) 第44回 LET 全国大会の成功、等でした。

1) 支部独自の「紀要」は、支部の研究活動を活性化させ若手学徒の研究の励みになると従来から考えていました。編集委員長の石井和仁（福岡大学）と編集委員の島谷浩（熊本大学）・武井俊詳（西南学院大学）・山内ひさ子（久留米工業大学）諸先生のご努力を得て、「LET Kyushu-Okinawa BULLETIN No.1」が2001年3月に発刊されました。小生の「創刊号に寄せて」、浅野博（LET 会長）・田所信成（第2代支部長）及び池浦貞彦（第3代支部長）諸氏からの祝辞、7編の研究論文・実践報告が掲載された「紀要」1号でありました。

2) 当時沖縄地区に登録されていた16名の先生方に「LET 九州支部」の呼称を「LET 九州・沖縄支部」と改名する旨を打診したところ、大きな賛同を受けました。

「LET 九州・沖縄支部」に改名後、沖縄地区の諸先生のご協力を得て LET になって初めて「第36回 LET 九州・沖縄支部研究大会」を沖縄で開催できたことは有意義でした。

3) 第44回 LET 全国研究大会は新装開館した「福岡国際会議場」で開催しました。大津敦史実行委員長（福岡大学）の下、20名の実行委員が一致協力して大会を成功裡に終えることができました。亦、懇親会は博多湾のクルージングを行いました。参加者から記憶に残る懇親会であったとの感謝の言葉を頂きました。

最後に、在任期間にご支援・ご協力頂いた運営委員諸先生と事務局を担当して頂いた富岡龍明（鹿児島大学）・柴戸直善（西南学院大学）・山口千晶（長崎ウエスレヤン大学）・濱田洋子（長崎純心大学）諸先生に感謝の辞を述べたいと思います。これから大津敦史支部長の下、運営委員及び会員諸先生が一致協力して WorldCALL 2008福岡大会に向けて頑張ってください。

第37回 LET 九州沖縄支部大会開催に向けて

柿元悦子（九州産業大学）

それぞれのキャンパス・学舎で新たに始まったストーリーの序章はいかに滑り出したことだろう。得体の知れない緊張から徐々に解放され、学生・生徒と教師の双方が相手の姿の輪郭を掴みつつある頃だろうか。

大修館『英語教育』5月号に村松賢一氏による大変気になる指摘を見つけた。OECD 加盟国の15歳児を対象に実施された学習到達度調査によって判明した日本人高校生の国語力の実態についてである。そこに見られたのは日本人高校生の読解力の問題ごとの正答率がたびたび OECD 平均値を下回り、さらに意見を述べる問題の白紙回答率にいたっては OECD 平均 10.2%の3倍近い28.8%に昇った（韓国6.4%）、という事実である。英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する、という目標のもと日々英語教師は悪戦苦闘をしている

とっていたが、この本質はもっと根の深いところにあるといえそうだ。日本は、物事に対して自分の考えを持つこと自体を放棄している若者の多い国になってしまっているのである。



今年度、大学は2002年学習指導要領改訂によるいわゆる「ゆとり教育」世代を迎え、週3回授業、コミュニケーション重視、文法事項・必須単語削減という英語教育を受けてきた学生達への対応を迫られている。基礎学力を確保する努力とともに、言語教育の一端を担う外国語教育において、若者の言語表現を豊かにする努力、自分の意見を持ち、表現することに意義を見いだせる教室環境を作ることに心を砕きたい。

そこで本学会が今年度研究大会に掲げたテーマが「CALLを用いた外国語教育の一層の活性化」である。現代の“ディスプレイ依存症”とも言われる若者たちにとってコンピューター支援はまず勉強に向かう際の情意フィルターを下げる働きをすることは間違いない。対人コミュニケーションを身につけるために一見障壁とな

りそうなコンピューター使用も、その活用法次第で大きな果実をもたらしてくれるはずである。

本大会プログラム概略は以下のとおりである。鹿児島大学 R. Fouser 教授による基調講演で幕を開け、8件の研究発表・実践報告の後、4会場に分かれてのワークショップ。4種の英語学習ソフトを用いた指導の可能性について具体的な情報が手に入るはずである。そして最後に中・高・大学から4名のパネリストをお迎えしてのシンポジウム。フロアで参加の皆様方とともに活発な意見交換の場が持てることを楽しみにしている。

大会会場の九州産業大学は、博多駅よりJR、天神より高速バスにて好アクセスであり、大会当日多くの会員の方々の来校を頂けるよう心よりお待ちしております。

九州産業大学の英語教育

この場を借りて本校のCALL・語学教育について述べてさせていただきます。

CALLに関して本校は残念ながら後発であり18年度予算による設置、19年度よりの利用開始となる。(会場校担当が来年度であればと少々残念ではある)しかしながら、後発を強みとして他校の例から様々なことを学びそれを活かしたいと思っている。

語学教育に関しては昨年度一大改革を実施し、全学共通英語教育プログラムが開始された。このプログラムの第一歩はTOEIC Bridgeの受験である。新入生全員が学内において受験し、その成績にしたがって学部枠も取り外し点数刻みのクラスに振り分けられる。学生はこの成績別クラスにおいて週2回(日本人教師・ネイティブ教師各1回)の英語授業を受ける。授業ではクラスレベルに応じたTOEIC Bridge得点の数値目標達成を念頭に置いた指導が行われることとなっており、学年末には全学生がアチーブメントテストとしてTOEIC Bridgeを再び受験することが義務付けられている。

このプログラムの要となるのがe-Learningプログラム(アルクネットアカデミー)による自習の必修化(成績評価への組み込み)である。学生はクラスレベルに従って設定された自習課題を期日までに仕上げることが求められている。リーディング(下位クラスでは英文法)課題に関

しては授業において毎回チェックテストも実施され、学生の学習時間確保をねらっている。昨年度e-Learning利用のための語学自習室の利用者は前年度比250%を越えている。

このシステムは実施のための手間は大きいものの昨年のアチーブメントテスト結果から、ひとまずの功を奏したということが出来る。受験者全体では得点上昇した者が60%。特に下位グループの学生においては75.6%の学生が得点上昇を果たしている。来年度からのCALL施設の開設はこのシステムをさらに推進してくれることと期待している。



事務局からの報告・連絡

【2006年度LET九州・沖縄支部研究大会】

日 時：2006年6月10日（土）

会 場：九州産業大学

基調講演：CALL Education in the United States
and South Korea

[Robert Fouser 先生（鹿児島大学）]

シンポジウム：CALL を用いた外国語教育の一層の活性化
（More Active Use of CALL in Foreign Language Education）

コーディネーター：Robert Fouser 先生（鹿児島大学）

【2006年度 LET 全国研究大会】

大会テーマ：『学習者の自律に果たす教員とメディアの役割』

日 時：2006年8月2日（水）～4日（金）

会 場：京都産業大学

【2006 Asia TEFL】

大会テーマ：Spreading Our Wings: Meeting TEFL
Challenges

日 時：2006年8月18日（金）～20日（日）

会 場：西南学院大学

<http://www.asiatefl.org/>

【会費納入のお願い】

LET 九州・沖縄支部の2006年度会費の振込用紙を同封しております。早めの納入をお願い致します。また、2005年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、できるだけ早めに振り込んで頂きますようお願い致します。支部の円滑な運営にご協力ください。なお、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

【LET ホームページ】

〈LET 本部〉 <http://www.j-let.org/>

〈LET 九州・沖縄支部〉

<http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/>

UCHIDA

マルチメディア語学教育支援システム

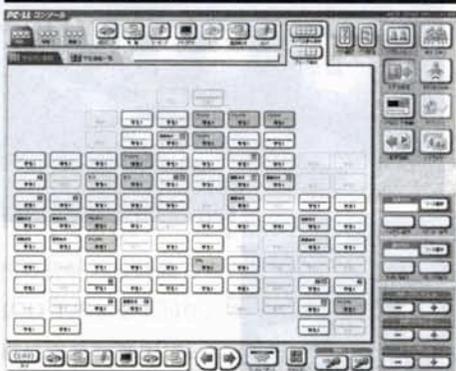
高性能、加えて多機能

PC@LL ビーシーアット
エルエル

だけど、やさしい。

コンピュータ&マルチメディアで、LLは新たな領域へ。

PC@LL コンソール



液晶タッチパネル採用に加えて、ほとんどの操作がワンタッチで完了。



PC@LLソフトレコーダ

手本音声の再生や学習者音声の再生・デジタル録音ができます。



PC@LLドリルスタディ

画像付きの問題にも対応した個別学習向きツールです。



PC@LL教材作成

デジタル音声から簡単にオリジナル教材を作成することができます。



内田洋行
九州支社

〒812-8692 福岡市博多区博多駅南1-14-14

☎092(482)5854

